

## ふるさとの原風景「谷津田の自然」を守り育てるために

千葉県環境保全推進課 斉藤久芳

### 谷津田保全事業のあらまし

千葉市が「谷津田の保全」を環境行政の重点施策に位置つけたきっかけは、今から10年前にまとめられた「千葉市野生動植物の生息状況及び生態系調査報告書」(平成8年)に遡ります。報告書によれば、市内には約4300種の野生動植物が確認され、その多くが谷津田や里山を中心とする自然環境に依存していることが学術的に明らかになりました。

この結果等を踏まえ、本市における野生動植物と自然環境の保全に向けた基本的な考え方を「千葉市野生動植物の保全施策指針」(平成11年)として定め、保全目標の一つである「広がりとボリュームのある自然・緑の確保」を実現するために「谷津田の自然の確保」が必要であるとしました。また、谷津田保全の拠点的なモデル事業として「エコミュージアム構想」を掲げてその後、事業化を図り、平成18年5月に「大草谷津田いきものの里(若葉区)」としてオープンしました。



一方、全市的な谷津田保全を推進するため、「谷津田の自然の保全活用に関する調査」(平成15年3月)を行い、調査結果等に基づき本市における谷津田保全の基本的な考え方を「千葉市谷津田の自然の保全施策指針」(平成15年7月)として決めました。指針では、谷津田保全の意義として、多様な生態系の保全、原風景を守り育て農村文化を伝える、自然とふれあい学ぶ、都市環境の保全、循環型社会の形成を挙げています。

そして、平成16年1月には谷津田保全の新たな制度として「谷津田の自然の保全に関する要綱」を定め、指針で掲げた保全対象の候補地25か所の谷津田を中

心に、農家や地元の協力を得て「保全協定の締結」を進め、これまでに緑区の下大和田町、小山町を含め、9地区10.0haの「谷津田等の保全区域」を指定しています。

### 農家、市民との連携による保全活動

谷津田の保全が、樹林や里山などの緑地保全と大きく異なる点は、農地を中心とした緑地を対象としていることです。農地は、農地法により耕作者が規定されており、市民団体等が環境保全の目的とはいえ、水田や休耕田を借りることは、農家資格のない者との貸借行為となり、農地法に抵触することになります。

このため市では、市民参加による谷津田等の保全活動を促進するため、谷津田等の保全区域において農家・市民団体・市の三者が「谷津田等の保全及び活動に関する協定を締結することにより、市民団体が援農方式での農作業(農家のお手伝い)を行うことを要綱に盛り込んでいます。市は、保全活動を行う市民団体に対し、管理に必要な道具の貸与や人材育成等の支援を行う予定です。

一方、谷津田での「米作り」に関しては、「主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律(新食糧法)」による、米の生産調整(計画的栽培)、流通・販売の制限を受けます。このため、谷津田の耕作が農地法上は問題なくとも、自由に米作りができるわけではなく、生産調整の枠組みの中での稲作又は試験栽培等に限られます。

このように、今の制度の中で市民団体が谷津田の保全活動として米作りに関わるには、「計画的な作付けを行っている農家を援農する方法」が望ましいと思われます。

終わりに、谷津田の保全活動を行ううえでの大切な視点を幾つか。まず農家との信頼関係を築くこと、それには「農家が不利(迷惑)になるような行為はしない」という姿勢を見せることが大切です。観察会を兼ねてゴミを拾ったり作業を手伝ったりして農家に対して協力的であること、畦は絶対歩かないなどルールを守る団体であることをアピールすると良いでしょう。また、活動する使命や保全の目標を明確にしてグループ内で共有すること、その際、自然だけでなく地域の歴史や文化にも目を向けることが大切です。農家が望む地域の環境の将来像について話を聞いたり、一緒に考えたりすることも必要です。



# 里山たんけんレポート

第 81 回「下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い」報告

2006 年 11 月 5 日(日) くもり

秋たけなわの谷津を、鳥の声を聞きながら、散策しました。いつもはたくさん実をつけるムラサキシキブやガマズミなど今年は実付きが少ないようでした。オオカマキリが産卵しているところが見られました。真っ白な卵のうが印象に残りました。ヤマカガシがう字溝に落ちていて昇れないでいたのを救出したりもしました。夏草の陰に隠れていたゴミが目立つようになり午後からは本格的なゴミ拾いを行いました。いつもの谷津周辺だけではなく、バス停から谷津に至る道もゴミを拾い、大型のゴミも片付けました。

開花植物：カントウヨメナ、シロヨメナ、ヒメジョオン、セイタカアワダチソウ、ハハコグサ、メナモミ、ハキダメギク、コセンダングサ、タウコギ、タイアザミ、セイヨウタンポポ、ヤクシソウ、オオジシバリ、ノゲシ、オニノゲシ、ホタルブクロ、キツネノマゴ、トキワハゼ、ハッカ、キバナアキギリ、ハナイバナ、シロツメクサ、カタバミ、イヌガラシ、タネツケバナ、ノミノフスマ、ウシハコベ、ヨウシュヤマゴボウ、カンアオイ、ミゾソバ、イヌタデ、ヤナギタデ、チジミザサ、ジュズダマ、ツユクサ。

野鳥：カワセミ、コゲラ、ヒヨドリ、モズ、ウグイス、エナガ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、アオジ、カケス。

昆虫：アキアカネ、オオアオイトトンボ、キチョウ、モンキチョウ、アカタテハ、ヤマトシジミ、ウリハムシ、コバネイナゴ、オオカマキリ、コカマキリ、ツマグロオオヨコバイ、オオスズメバチ、ハグロハバチ幼虫、ホシハラビロヘリカメムシ、マルカメムシ、シマアメンボ。

クモ：ナガコガネグモ、ジョロウグモ。

両生・爬虫類・魚ほか：ニホンアカガエル、ヤマカガシ、ニホンカナヘビ。

(参加者 大人 20 名、小人 13 名 報告：網代春男)

第 66 回 下大和田 YPP「収穫祭」

2006 年 11 月 12 日(日)晴れ



今年の収穫を祝って恒例の収穫祭をしました。いつものように谷津の広場にたくさんの人が集まり、おいしい香りの“屋台”が並びます。焼き鳥、いか焼き、焼き魚、具たくさんのみそ汁、たき火で焼き芋・・・みんなで作って味わいました。新米コシヒカリはかまどで羽釜を使って炊きました。釜のふたを開けるとふっくら炊きあがったご飯に歓声が上がります。口に入れ

て、「おいし～い!」、「あま～い!」。お釜はあっという間に空っぽになってしまいました。お腹がいっぱいになってから、谷津田運動会をしました。小さな子ども真剣な顔つきで竹切り競争、笑いがいっぱい種とばし競争、そして賞品の新米をめざしてウルトラクイズ。大人も子どもも熱中しました。

収穫祭の間、今年のちば環境情報センター研修会で生まれたアイデア「穂田流(ホタル)通貨」を始めて試みました。参加受付の時のもらったドングリを“人力”ATMに入れると地域通貨セットが出てきます。通貨を使って食べ物を買ったり、参加者が持ってきたいろいろなものを買ったり、イベントへの参加費にしたりできます。小さな子どもたちも通貨を大事そうに持って何に使おうか一生懸命考えて、使ってみて楽しそうでした。これからもいろいろなイベントでやってみる予定です。

初冬の一日は盛りだくさんのアクティビティであっという間に過ぎていきました。

(参加者 大人 30 名、幼児 3 人、小学生 6 人；報告：高山邦明)



あいにくの冷たい雨の観察会でした。今年は暖かかったせいか、例年に比べて秋の草花がまだ随分とたくさん残っているように感じます。さすがに冷たい雨で虫の姿は少なく、動きのにぶいイナゴやハシリグモ・コモリグモの仲間が見られた程度でした。元気なのは鳥たちで、騒々しいくらいにぎやかなカケスやヒヨドリに加え、冬鳥のツグミやジョウビタキの声も聞こえていました。エナガやメジロは大きな群れを作って渡り歩いていて、時折林が急ににぎやかになります。これからは鳥の季節ですね。

開花植物：カントウヨメナ、シラヤマギク、キク sp.、ヒメジョオン、セイトカアワダチソウ、ハハコグサ、ダンドボロギク、タカサブロウ、タイアザミ、オキノゲシ、ヤクシソウ、キツネノマゴ、アカバナ、アメリカイヌホウズキ、ヤマハッカ、オオイヌノフグリ、ホトケノザ、カタバミ、タネツケバナ、ミズヒキ、イヌタデ、エノコログサ、メヒシバ。

野鳥：アオジ、ウグイス、エナガ、カケス、コゲラ、ジョウビタキ、セグロセキレイ、ツグミ、ハシブトガラス。

昆虫ほか：コバネイナゴ、イオウイロハシリグモ、コモリグモ sp.。

(参加者 大人5名、幼児1人、小学生1人；報告：高山邦明)

### 谷津田・季節のたより

#### 下大和田

- 11月 4日 (土) 冬鳥ジョウビタキのさえずりを聞く。アシ原にカシラダカの群れが到来(高山)。
- 11月 8日 (水) 前日の強風で倒壊したオダを補修(石橋・金谷)。
- 11月12日 (土) ツグミの声を聞く。まだ、数は少ない(高山)。
- 11月18日 (日) 古代米の脱穀をする。田んぼでアキアカネが産卵していた(高山)。



#### 小山町

- 11月 3日 (金) リンドウが咲く。冬鳥のアオジの姿をはじめて見る。(高山)
- 11月 9日 (木) 湧き水のそばには誕生したばかりのサワガニの子どもがたくさんいた。親ガニらしき大きなカニもそばに1匹いた。(松下)
- 11月13日 (月) 脱穀中、オオイトトンボが姿をあらわす。林の中から猛禽類らしき鳴き声を聞く。姿がみえなかったのが残念。(松下)

### 下大和田に不法投棄！

残念なお知らせです。下大和田の谷津の道路に2回にわたり不法投棄がありました。1度目は10月10日に発見され、2m×10mくらいの範囲にコンクリートの破片や砂利、それに混じってガラスの破片やペットボトルが捨てられていました。直ちに市に通報し、土木事務所が対応することになったのですが、その処理がまだ終わらない11月3日に2回目の投棄が見つかりました。今度は同じ道路を完全にふさいで風呂場を壊した廃材と思われるタイルの付いたコンクリートやU字溝が2m×1.5メートルく



くらいの範囲に積まれていました(写真)。悪質であることから警察に通報し、現場検証が行われました。現在は両方とも市により取り除かれています。人目につかなくなった谷津ではこのようなひどい行為が繰り返して平然と行われてしまうのは実に悲しい現実です。急遽、11月4日の定例観察会のあと、徹底したゴミ拾いと草刈りをして見通しをよくして、「捨てにくい」環境づくりをしました。皆さんも身近な谷津がこんな不法投棄場所にならないよう、気をつけて目を向けて下さい。もし、投棄を見つけたら最寄りの警察や千葉市なら産廃指導課、千葉県なら産廃課に必ず通報をお願いします。(報告：高山邦明)

## イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ？ と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPの活動は大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。  
連絡先(いずれも): ちば環境情報センター(TEL&FAX:043-223-7807 E-mail:hello@ceic.info/)  
ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないでください。  
・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。  
・小学生以下のお子さんは保護者同伴で参加ください。

### 第 67 回 下大和田 YPP「古代米のもちつき」第 68 回「どんど焼きと昔あそび」

2006年最後のイベントは恒例のもちつきです。今年はいつもの倍の広さの田んぼに緑米を育て、たくさんのもち米が収穫できました。ペタン、ペタン、調子のよいもちつきの音を谷津に響かせましょう。そして新年最初のイベントはどんど焼きをしてその周りで昔ながらのけん玉、お手玉、べいごまなどの遊びを楽しみます。

日時: 2006年12月16日(土)10:00~14:00  
2006年1月7日(土)10:00~14:00 \*いずれも小雨決行  
場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)  
集合: 中野操車場バス停に10:00(JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:53、9:08、9:23など>料金は520円)  
持ち物: 弁当、飲み物、敷物、お椀、皿、はしなど。1月7日はどんど焼きで燃やしたいもの(正月飾り、習字はど)、昔あそびの道具など(もしあれば)  
参加費: もちつきは大人500円・子ども300円、どんど焼きは全員300円  
主催: ちば環境情報センター(ホームページ <http://www.ceic.info/>)  
共催: ちば・谷津田フォーラム(ホームページ <http://yatsuda.2.pro.tok2.com/>)

### 第 17 回 小山町自然観察会とコシヒカリの試食会

晩秋を迎えた谷津田の様子を観察した後、小山町ではじめて収穫したコシヒカリの試食をしたいと思えます。豚汁も用意します。いろいろなゲームもして、初冬の1日を楽しみましょう。

日時: 2006年12月17日(日)10:00~14:00 \*小雨決行  
場所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場(当日、小山町集会所前に案内を出します)  
持ち物: 長靴、軍手、敷物、飲み物、お椀、おはし、皿など  
参加費: 300円(今回は食材費を含む特別料金になります)

### 第 84 回 下大和田 1月の谷津田観察会とごみ拾い

冬鳥も揃う頃です。鳥を観察しながら谷津を散策しましょう。

日時: 2006年1月7日(日)10:00~14:00 \*小雨決行  
場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(同上)  
集合: 中野操車場バス停に10:00(同上)  
持ち物: 筆記用具、弁当、水筒、長靴、帽子、敷物、軍手、ゴミ袋など  
参加費: 300円(保険・資料代など)  
主催: ちば・谷津田フォーラム  
共催: ちば環境情報センター



**編集後記** \*下大和田の古代米の脱穀が終わり、田んぼの作業が終わりました。昨年で米づくりを止めた地元の方の田んぼを請け負い、例年の倍の広さとなった田んぼでの米づくりは大変でしたが、みなさんのご協力により何とか谷津田を守ることができました。有り難うございました。オダがなくなった田んぼを見ていると感慨ひとしおです。小山の田んぼはそれに比べるとちっぽけですが、去年まではあし原だったところが十何年ぶりに田んぼに復活したことはすごいことだと思います。貴重なお米を大切にいただく予定です。来年もまたよろしくお願いします。(高山)

\*今年1年は、みなさんのご協力のもと休耕田を復田することができた事が何よりの収穫です。コシヒカリ・古代米は、あわせて20キロありました。収穫量としては少ないもの、アシ原が、田となり、生き物が住みつき、お米が実る過程から自然の力強さを教えてもらった事も大きな収穫でした。来年も地道ではありますが、少しずつ復田し、谷津田のいのちを育みながら、子どもたちの集える場づくりができればと思います。よろしくおしいたします。(松下)